

平成19年度第1回北信越ブロッククラブミーティング2007開催報告

日時：2007年6月16日土曜日 10時～17時

会場：長野県長野市・サンパルテ山王

6月16日(土)第1回北信越ブロッククラブミーティング2007が長野県長野市「サンパルテ山王」にて開催された。

今年度、北信越ブロック(長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県)から23クラブ37名、県体育協会事務担当者、クラブ育成アドバイザー、地方企画班員が参加した。総合型地域スポーツクラブ設立へ向けての取り組み方や課題について情報交換し、設立へ向けてのステップとなる協議を繰り広げた。

シンポジウム「総合型クラブ設立に向けた活動について」

コーディネーターを北信越ブロック地方企画班員西原康行氏、シンポジストに新潟県NPO法人スポネットせいろ事務局長安達勝間氏、長野スポーツコミュニティークラブ東北副理事長高池一昭氏、石川県クラブ育成アドバイザー西村貴之氏で行われた。

シンポジウム開始にあたり、西原地方企画班より『これならうちのクラブでもできそうだ』という共有できることを自分達のクラブで参考にしてほしいと伝えられた。

NPO法人スポネットせいろ

平成18年2月に設立。平成11年にクラブの母体となる体育協会の中で、スポーツクラブ検討委員会を設置し、町のスポーツ事業の実態からみえてきた課題、施設の利用状況、学校部活動の現状といったことを総合型地域スポーツクラブでどのように取り組んでいけばよいのか検討し始めた。検討委員会メンバーは、体育協会、体育指導委員、中学校教諭である。スポーツ振興くじ(toto)の助成を受けて(平成14年～16年)取り組んできたことを町行政へ報告・提言をし、設立へ向けた協力要請をしたところ全面協力を了承してもらった。町行政へは、『学校スポーツ活動を地域住民と保護者、学校が協力してできる環境を目指す』、『競技スポーツだけでなく、健康増進や仲間づくりなどのスポーツを通して地域の活性化を図る』、『人材・財源、情報、施設利用等で町の助言・援助が必要』といったクラブのあり方や支援体制について報告・要請をした。

その後、設立準備委員会を立ち上げ2年後、設立総会を迎えた。平成18年4月からはNPO法人スポネットせいろとして活動。現在、設立準備当初から関わり経理処理ができる方、定年退職された元教員、そして安達さんの3名が常勤事務局スタッフとなっている。

検討委員会で取り組む前から、聖籠町体育協会は各種団体や体育教員、各種委員にスポーツに関する懇談会を開催していたが設立当初、会員募集をかけたところ、競技団体の中には総合型クラブのメリットを感じられず、またクラブ側も提供できるものがみつからず、クラブ会員でない団体もあった。今後は、会員サービスの向上とともに、施設管理も受けることから『誰もがいつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツ活動ができる環境づくり』を目指していきますと話された。



長野スポーツコミュニティークラブ東北 HP: <http://www.geocities.jp/supocomi/>

平成12年7月設立。クラブ設立から7年が経過し、その中で感じたこととして1年目では、バスケットボールのみの単種目でスタートし、参加者は小学生から一般まで多年代にわたっての参加であ

り、指導者としてクラブと関わる意識改革の必要を感じた。既存のスポーツクラブや中学校部活動種目が加わり定期的なスポーツ活動の展開が始まり、スポーツの場を求めている人達（特に高齢者）がたくさんいることがわかった。さらに市教育委員会の承諾を得、中学校の空き部屋にクラブハウス（事務局）を設置し、専従の事務局員も配置したことでクラブハウスの存在の大きさが感じられた。4年目になると、組織は確立し、イベント開催やスペシャル企画も実施できるようになるが、様々な活動に取り組んでいくと見えてくるものも多くなり、活動の充実にともない課題もたくさんでてきた。5～7年目は、同じ想いをを持った仲間のつながりや強さが感じられてきた。3年クラブを続けダメだったらやめようというところから現在8年目、できる範囲内で楽しみをもってやってきたことが現在も続いている最大の要因だと話された。

クラブと学校、教員の関わりとして、施設は毎週土曜日、学校体育施設（体育館・武道館・グラウンド・テニスコート・プール）を全面的にクラブへ開放してもらっている。生徒や教師の関わりは、クラブのチラシや会員募集は中学校と、地区内の小学校に配布。参加については自由である。月に1、



2回は参加者や保護者と幅広い年代層での交流を行っている。指導者（顧問）の謝金はクラブから1回1,000円程度支給。用具類は、クラブからの多少の補助と、不足分については各部毎に徴収している。

クラブ運営については、安定的な財源を求めるために、会費の値上げは勇気のいること。運営から経営という考えで収入源を考えている。しかし、会員が増えると収入も増えるからいいだろうということではなく、やはり会員の満足度をこれからは高めていくようにしていきたい。

またNPOへの申請も検討していくと今後の取組みについても紹介された。

西村氏からクラブを創る中で、ポイントが2点あり、「クラブの立ち上げ方」と「クラブの育て方」である。また、「壊し方」という考えもある。新しいものをつくるには、壊さなくてはならないものもあるだろう。「壊す」という考え方もあるが、「再構築する」ことも重要なことであると思うと話があった。

大きな前進はしていないかもしれないが、後退はしていない。また自分たちができることに取組んでおり、背伸びはしていないという印象が両クラブから伺えた。

グループディスカッション・全体会

県内外、新規・継続クラブ問わず、3つのテーマ別で編成されたグループで、グループディスカッションを行った。コーディネーターに白倉香理氏、各テーマからの意見助言者として榎敏弘氏、西原康行氏、柳見沢宏氏の4名の地方企画班員により全体会を行った。各テーマの内容については以下のとおり。

【クラブの理念・目的、設立過程】

地域のスポーツ、環境の問題点や課題を解決することや願いといったものがクラブ理念や目的として出来上がっていくのではないかと。しかし、クラブ内の少人数が理念・目的を共有するのではなく、多くの人が共通理解することが大切である。さらにその想いにつながる行動も必要であろう。

しかし、初めに柔軟性のない理念を作成してしまっただけでは、その後の活動が広がらなくなってしまうことも考えられるため、活動を通して想いや情熱を固め、



理念・目的を決めていくことでもいいのではないか。

クラブ創りにおいて、「会議力」と「事務力」があり、「会議力」には決める・伝える・提案する・共有するといったものがある。「事務力」とは共通行動・共通認識をもつこと。事務力は事務局には重要であり、クラブ運営に影響を及ぼすこともある。一つの会議にも目的を明確にし、会議以外の話し合いも重要なことである。設立準備委員会では、総合型地域スポーツクラブとは何であるかということとをみんなが理解することも大切。その際、あいまいな点はつくってはならない。また、地域のスポーツ環境を数値的に把握することも大切であると意見があった。

【人材の確保と既存団体等との連携】

体育協会や各競技団体、学校職員、既存団体などから運営スタッフとしてクラブに入ってもらうことで広く事業展開ができる可能性もある。しかし、地域の様々な団体を入れ、人数が多くなればいいというものではない。意見の集約などを考えると、クラブが動きやすい人数で構成することが望ましい。やはりクラブをつくっていくのは“ヒト”であり、どんな“ヒト”を入れるかが大事なことはないかと助言があった。

志向の違う参加者に対応するため、同じ種目でもレベルの違う指導者を確保するのは難しい。しかし今は、大学をはじめ、学生がクラブと関わることも増えてきており、それぞれが地域密着ということも考え始めている。その他、地域の中からパソコンや、経理処理、マネジメントに長けている人を取り込んでいくことも可能である。



クラブが活動していく中、他団体、利用者との調整が難しいとの声も多く、地元施設については使用できるように働きかけていく必要性を感じていた。また、学校との連携、関係者の理解を得たい、学校教員をクラブに取り込んでクラブ活動を展開していきたいというクラブも多く、その場合は1人でもかまわないのでコンタクトを取りやすい教員を取り込み、クラブとのつながりをもっていくことが必要であるなどの助言があった。人材を取り入れていく際は、一方的にクラブの想いを押し付けてしまうのではなく、「一緒にやろう」というスタンスでいることが大事である。

【クラブの事業と財源の確保】

クラブ事業を開催するときは参加者だけでなくスタッフも楽しいと思える事業を企画するといいいのではないか。魅力あるプログラムの提供は、住民ニーズを把握し、参加者に対応したプログラム提供が必要であろう。

財源の確保としては、将来を見据えた会費設定をしていくことが重要。クラブ運営にかかる経費から考えることもできる。さらにスポーツ以外の市場をみることやアンケート調査などを実施してみる方法もある。ヒトとヒトとの関係が財源確保につながる。ただし、会費を設定することだけに主眼を置くのではなく「良いサービス」を提供していかななくてはならない。良いサービスのためにはクラブの指導者も大切。またサービスはクラブ、地域ならではのものを考える必要もある。民間とは違うコ



ミュニケーションがつけれるのも総合型地域スポーツクラブではないかという意見もあった。

さらに、継続クラブ『ゆたかの総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会』の事務局より、今日から会員募集を始めたという状況、会費の設定など会員募集をするまでの紹介もあった。

(報告；北信越ブロック地方企画班員 白倉 香理)